



# ちよつと勉強室 No.97

## 今回のテーマは 食物アレルギー

### (1) アレルギーとは？

近年、花粉症やアトピー性皮膚炎、食物アレルギー等、アレルギー症状を持つ人が増えており、国民の3割は罹っているといわれています。アレルギーとは、「過敏症」と訳される免疫反応で、体が異物を排出するためのメカニズムの一つです。アレルギーは紀元前から症状は知られていましたが、1906年、オーストリアの小児科医ピルケが、allos(異なった)と ergon(作用)を一緒にして『allergy』という言葉を作りました。「本来なら疫病を免れるはずの免疫反応がかえって有害な反応に変わる」という意味が込められています。

アレルギーは、抗原(アレルゲン)を摂取することで起こります。抗原が体内に入ると抗体ができ、そこへ再び抗原となる食物を摂取すると、抗原と抗体が結びつき、アレルギー反応が起こります。タンパク質は抗原となりやすい物質で、体質によりアレルギーになりやすい人と、そうでない人がいますが、遺伝するといわれています。

食物によるアレルギーには毒性物質(細菌毒素や自然毒)によるすべてのヒトに起こりうる反応と、ある特定のヒトに起こる非毒性物質による反応があります。非毒性物質による反応のうち、免疫学的機序を介する反応が「食物アレルギー」とされ、皮膚や粘膜症状、消化器症状や呼吸器症状、場合によって全身性のアナフィラキシーに至る重篤な症状もみられます。一方、乳糖不耐症等は体質的に乳糖を分解できずに下痢を起こすものであって、食物そのものによるものなので、食物アレルギーとはいいません。

### (2) 免疫とは？

免疫には自然免疫と獲得免疫の2つがあります。自然免疫は、はじめから備わっているもので、ありとあらゆる病原体等に対応できるものです。白血球・マクロファージ・NK細胞などに発現する病原成分をパターン認識する受容体が存在し、このアンテナが異物をキャッチすることから反応が始まります。切り傷や疲れ、ストレス、老化等から守ってくれる反応をいいます。一方、獲得免疫はある特定の病原体等に感染して初めて得る免疫で、一度獲得したら二度と忘れないという特徴を持っています。リンパ球が主体で、一兆種類にも及ぶ抗原受容体によって異物を認識し、特定の受容体を持つリンパ球が増殖することによって異物に対処するため、時間がかかります。ワクチンはこの獲得免疫の特性を利用したものです。アレルギーはこのタイプの過剰な反応により起こります。

### (3) 新しい型の食物アレルギー

食物依存性運動誘発性アナフィラキシー:食物アレルギーの特殊な型として、最近注目されています。これは、特定の食物を摂取した後、運動(特に、激しい運動)をすることにより、蕁麻疹・下痢・腹痛・低血圧・意識障害等のアナフィラキシー症状を起こすことが特徴として知られています。原因抗原として頻度が高いのは、小麦やえび・かになどの甲殻類です。特に男子に多いといわれています。このタイプの怖いところは、はっきりした診断が出しにくく、家庭でも気づかれず、学校給食で初めて発症するケースもあります。

口腔アレルギー症候群(OAS):最近報告が増えているアレルギーの新しいタイプです。幼児・学童・成人にみられ、特に成人女性に多く、果物(キウイフルーツ・メロン・もも・パイナップル・りんご等)や野菜(なす・トマト・セロリ等)が原因とされます。口腔内の症状だけのことが多いですが、ショック症状を呈することもあります。種々の花粉症患者に合併することが多いとされています。